

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年7月31日発行 No.46

『神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。』
(ローマの信徒への手紙 8:28)

<夏休みに行われる海外研修他 壮行礼拝を挙行!! この夏の充実した出会いと成長を願いつつ….>

先週の水曜夕方、チャペルには目を輝かせた学生たちの姿が多く見られました。こんな時間に珍しい…と思われる方も多いかもしれませんが、この日は夏休みを利用して海外研修や交換留学、また今年からはもう一歩進んだ専門性を兼ね備えた海外インターンシップ(プレプログラム)に参加する学生の学びを願って壮行礼拝が行われました!! 行き先はアメリカ、イギリス、オーストラリアに加えてアイルランドやタイ、フィリピンに中国、ノルウェーと多岐にわたり、期間もコースによって1週間ほどの短いものから一ヶ月、3ヶ月、半年以上のものまで用意されています。今回は総勢33名(＋4名の引率教師)が研修に赴きますが、その一挙手一投足に神の恵みと導き、そして喜びが存在しているという聖句が近藤センター長から朗読された後、下村学長からは「KIUの看板を背負っているというプライドを忘れずに、十二分に楽しんできて欲しい」という温かい励ましのメッセージが贈られました。

私も大学生時代に1年間の海外生活の機会が与えられましたが、今思い返してみても、あの時の経験や学びが今の自分の器を基礎づけていると言っても過言ではありません。この夏、様々な出会いを経験される皆さんの上に、主の導きと恵みが豊かにあるよう、心からお祈りしています!!



留学予定者に聖句を朗読する近藤先生



責任と楽しみを説く下村学長



礼拝後にはオリエンテーションも

<皆様のご協力に心から感謝!! 前期の昼礼拝データを通して見えてくるものは…?>

先週の金曜日で前期の昼礼拝が終了となりましたが、その詳細を整理してみても見えてきたデータがあります。前期の総礼拝回数は75回、礼拝出席者総数は2,031人(一日の平均出席者は27人)でした!! この数字は、お昼の礼拝にご出席下さった皆様のご協力あっての事と思い、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました!! 後期も様々なプログラムを用意し、昼礼拝を盛り上げていきたいと考えていますので、ぜひ覚えてご参加下さい!!



7月誕生者の祝福を行いました

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています。

7月24日(月) テーマ:「こだまでしょうか」

寛 裕樹(リハビリ学部3年)

今日のお話のタイトルは、私の好きな童謡詩人 金子 みすゞさんの有名な詩から取ったものだ。チャペル活動の一つに、「共に祈る活動」がある。私も過去に現場実習に臨むリハ学部生を覚えて祈ったが、「応援の思いを言葉・文字にする」行為は、応援を受けた側に「経験」という力を与え、そして「こだま」=「ことだま」として、「熱いバトン」として自分の中で大きな刺激になると私は考える。リハ学部3回生は、今年2月に引き続き、4回生から受けた「熱いことだま」を胸に、11月末から3週間、臨床実習に赴く。それは来年2月に初の臨床実習に行く2回生や国家試験を控える4回生へ向けてのバトンとなっていく。この神戸国際大学という小さな大学で聞こえる「がんばろう」というこだま=ことだまが皆の刺激になり、学部の域を超えた応援となる事を心から願う。

7月25日(火)

この日は、恒例の「音楽礼拝」で、前期最後となる聖歌隊の奉唱を行いました!!

この夏、集中練習も行い、更に声量と →
ハーモニーをパワーアップさせて後期
以降に再登場いたします!! 乞うご期待!!



7月26日(水) テーマ:「元気な高齢者」

米浪 信男(経済学部)

タイトルの「元気な…」には色々な意味があるが、一般的には精神的・肉体的に健康である状態を指すが、平均年齢も80歳を超え、また「高齢者」を指す年齢も変化しているので改めて見直したい。まず第一に3原則(健康・栄養・運動)が守られている事。第2に頭と体の両方(この2つは連動している)を使っている事。第3に仕事(自分のできる事)を続けていく事。第4に仲間(特に同年代でない方が良い)がいる事。第5に惰性で生きるのではなくチャレンジを続ける事。最後に毎日を暇するのではなく、忙しく生きる事だ。100歳を超えた人が多くいる日本社会ではあるが、上記の6つを大事にして、本当の意味での「長寿」社会となる事を願う。

7月27日(木) テーマ:「教育実習で学んだこと」

八代 祈(経済学部4年)

先月、私は母校で教育実習の機会が与えられた。強い緊張と不安の中での実習であったが、生徒とのつながりに力をもらいながらから実習を続けた。授業実習では「どうすれば生徒が授業に集中してくれるのか?」を問い続けながら色々と試行錯誤を続けた。しかし最後までクラス全体を上手にリードする事が出来ず、唇を噛むような悔しさの中実習最後のHRの号令を呼び掛けた時、クラスから全員の寄せ書きと花束を贈ってくれた。この3週間の実習を通して、ここでしか得る事のできない貴重な学びと、目の前の相手を理解する事の大切さ、そして自分を支えてくれる多くの存在に気付く事が出来た。同時に今日の聖句(ロマ8:28)に示された真理を強く感じた。どんな事があっても、神の計画を信じながら努力する事で全ては必ず私の為になり、良い方向へと進んで行くのだと思う。

7月28日(金) テーマ:「マイスター オブ ライフ」

野間 光顕(チャプレン)

先日、キリスト教センターの冷蔵庫が故障した。困っていると施設系のMさんが後ろから構造を調べ、原因を突き止め、応急処置まで施して下さいました。その様子を見ながら、改めて専門家や職人の凄さを強く感じた。私たちの世界には様々な専門家が存在するが、今日の聖句である創世記には、私たちの「命」の専門家、すなわちこの世界の創造主が登場する。7月を経て迎える8月、日本では特に命に思いを馳せる行事や記念日が多くある。そんな時、今一度私たち一人ひとりの命を創り導かれる主の存在を覚えつつ、共に歩みを進めていきたい。

(文責:野間 光顕)